



# ヘルスエクイティDX分科会

リーダー機関

自治医科大学

代表者名

自治医科大学ヘルスエクイティ-地域共創センター 副センター長 門田行史

リーダー名

中央大学文学部

教授 高瀬堅吉

自治医科大学小児科学講座

教授 熊谷秀規

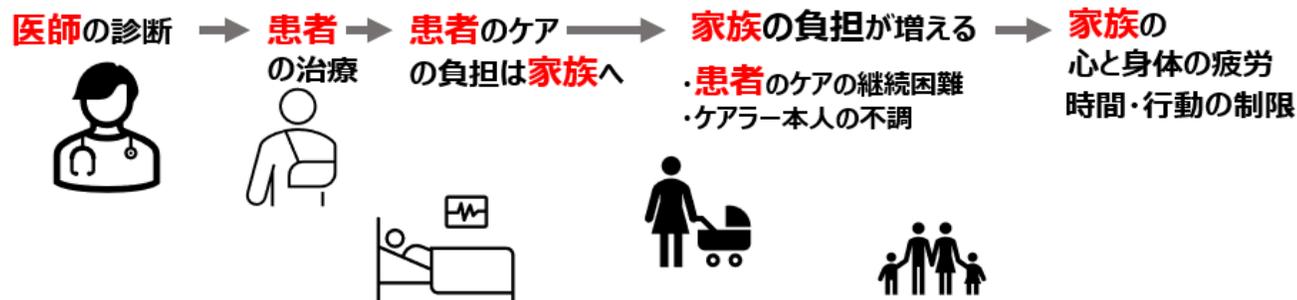
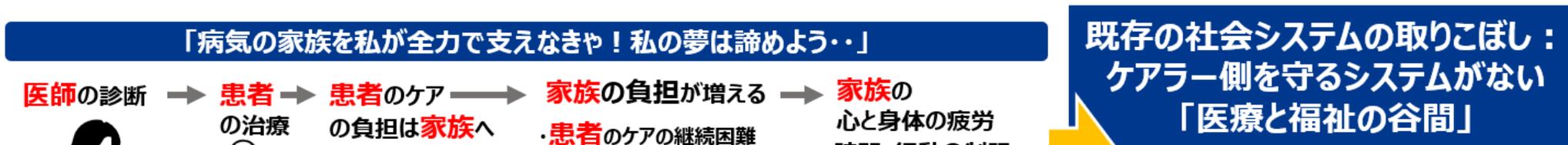
アルム株式会社

代表取締役社長 坂野哲平

# 地域課題：なぜケアラーをケアする必要があるか？



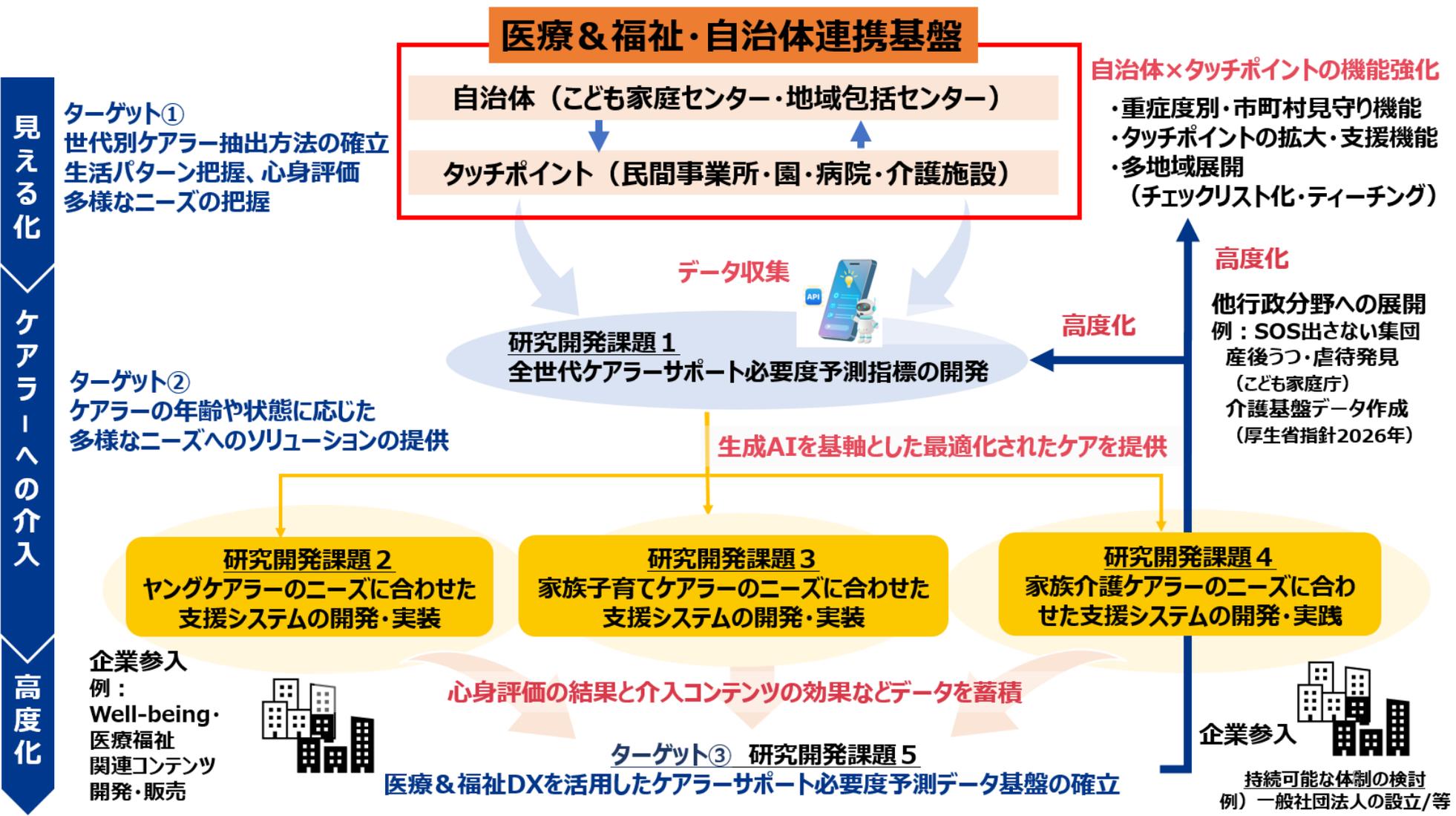
- ケアラーとは、こころやからだに不調のある人の「介護」「看病」「療育」「世話」「気遣い」など、ケアに必要な家族や近親者、友人、知人などを無償でケアする人を意味する。
- 現在の日本の介護者の約 **7割** は家族が担っており、「**誰もがケアラーになりうる社会**」を見越した社会変革が必要



課題の大きさ	規模	経済損失額（/年）
ヤングケアラー	150万人 若者の8%を想定	1,000億円 進路を断念する若者の人数から算出
ビジネスケアラー* <small>*仕事をしながら家族等の 育児・介護を担う人々</small>	300万人	9兆円 2023/11/13NHKによる

## ケアラーのイメージ







## 実現したい未来

家族まるごと支援から  
ケアラーのWellbeingを実現

医学・介護による健康管理

複雑な地域課題を  
人の交流・DX・生成AI  
を活用して解決

医療&福祉・自治体の  
情報データ連携から  
地域課題を解決

工学・情報技術によるデータ連携基盤

自治医大卒業生  
ネットワーク&遠隔技術  
を活用し地域格差是正

街づくり・個別ヘルス&ケアから  
公平・公正（ヘルスエクイティ）  
な社会作りを目指す

ヘルスエクイティを全国へ

自助・共助・公助の理念に  
基づく社会インフラ構築により  
実現する  
ヘルスエクイティ共生社会

# 2028年までのアクション



研究開発課題	2024	2025	2026	2027	2028
<b>課題1</b> 予測指標を計測する 評価ツールの開発		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ケアラーの特徴を定量化しデータを収集するアプリの開発</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ケアラーのサポート必要度を予測する評価ツールを開発</li> <li>・ケアラーのサポートコンテンツ提供する機能をアプリに拡張</li> </ul>		
<b>課題2</b> ヤングケアラーへ 寄り添う検証研究		<ul style="list-style-type: none"> <li>・各世代のケアする人とケアされる人とのタッチポイントを作り、ケアラーの情報やニーズを蓄積</li> <li>・各世代ごとに、病院・自治体・学校・職場など関係者が保有するデータを収集し、デジタル化</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・既存の介入コンテンツを整理し、生成AIを用いた新たな介入コンテンツの開発・高度化</li> </ul>	
<b>課題3</b> 家族子育てケアラーへ 寄り添う検証研究					
<b>課題4</b> 家族介護ケアラーへ 寄り添う検証研究					
<b>課題5</b> 医療＆福祉・自治体 データ基盤の確立		<ul style="list-style-type: none"> <li>・アプリと連動したデータベース構築</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・効果検証に有効な指標・の特定</li> <li>・マルチセクターで情報共有基盤の確立</li> </ul>	

世代別ケアラーの  
早期発見・評価

ケアラーへのテーラーメイド  
ソリューションの提供

医療＆福祉×を活用した  
ケアラーデータ基盤の確立